

国会事務所閉鎖にあたって

(2013.7.26)

私、辻泰弘は、2001年の初当選以来、12年間にわたって「政治とは人間の幸せの追求である」をスローガンとし、共生・公正・支え合いの社会づくりを思い描き、人間のための経済社会をつくることをめざして国会活動を展開して参りました。

国会では、参議院の厚生労働委員会などに所属し、医療、年金、介護、福祉、雇用・労働、子育て支援など、日々の生活・暮らしの幸せづくりを求め、

「『厚生』の『生』の『生』たる所以は、生活の『生』、人生の『生』、生命の『生』、衛生の『生』、生身の人間の『生(ナマ)』である。その『生を厚くする』ことが厚生労働行政の使命であり、政治の使命であり、それこそがわが人生の旗印である」との熱い情熱を込めて、政策活動に全力を傾注して参りました。

この間には、参議院厚生労働委員長の任に就かせて頂き、また、政権交代の後、厚生労働副大臣の重責を担わせて頂くことができましたのも、ひとえに皆様方から賜りましたご支援、ご厚情の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。

過般の参議院選挙の結果は大変厳しいものとなりましたが、皆様方のお力により人事の限りを尽くした悔いなき闘いが貫徹できたことは誠に本望でございました。

今後益々、社会保障、雇用・労働などの政策課題の解決が求められる状況の中で、国会を離れることは、政治一筋に生きて参りました私、辻泰弘にとりまして、誠に心残りであり、残念なことでありますが、今はただ、しばし身体を休め、心静かに時代が推移する中での政治の今日的なありようを見つめ直してみたいと思います。

12年間、誠にありがとうございました。ただただ感謝、感謝の思いで一杯です。暑さ厳しき折柄、ご健勝にてお過ごし下さい。ご多幸を心よりお祈り申し上げます。